

12月・冬期講習の授業記録をお送りいたします。

在塾生ならびに保護者の皆様——明けましておめでとうございます。

冬期講習の慌しさの中で瞬く間に過ぎた、年の瀬——そして、また新たな一年を迎えました。

引き続き在塾生のみなさんの学力向上を目指し、その学習をしっかりとサポートするべく精一杯尽力させていただきます。どうぞ本年もよろしくお願い申し上げます。

11日間に及んだ冬期講習は1月8日(月)につつがなく終了し、1月9日(火)より平常授業に戻りました。どの教室も受験間近というこの時期特有の緊張感に包まれており、多くの受講生が熱心に机へ向かって勉強に勤しんでおりました。

とりわけ中3受験生に対しましては追い込みの時期でもあり、当塾では各講師が渾身の力を込めてその指導に傾注いたしました。

いよいよ受験生にとっては「試練の年」となると共に、「人生の記憶に残る大切な年」ともなる1年の始まりです。自身の弱気に打ち勝って、後日に悔いの残らないよう受験日まで全力を尽くし、机に向かって遮二無二勉強していきましょう。ご父母各位のご心労もいかばかりかと拝察いたしますが、お子様の健康面に配慮されつつ、どうぞあたたかく見守っていただければと存じます。

★中学1・2年生のみなさんへ★

『3学期の定期試験』は、1年の総決算。みなさんにとって、大切な試験です。

中学1・2年生で学習する内容は、中学3年生の学習を進めていく上での基礎・土台になるという意味において、とても大切なものです。冬期講習で学習した内容を踏まえつつ日々の学習を充実させ、時間があるときには塾の自習室などを積極的に活用しながら、着実に基礎学力をつけていきましょう。

現在の埼玉県立高校入試においては、「中学1・2年生の通知表の成績(学年評定)」を実際の学力検査の点数に合算するという形態をとっています。その観点から見れば、県立高校入試というものは実際のところ中学1・2年生のうちから始まっているといえることができます。したがって、**県立高校を第一志望にとお考えの現中学1・2年生及びその後家庭にとりまして、学年末の定期試験にあたる『3学期の定期試験』は、1年の総決算であり、また学年評定を決定つける非常に重要な試験**です。

来月下旬に行われる試験ですので、まだ先のことではありますが、今からこの試験の「大切さ」を心に留め、ぜひ塾の「定期試験対策」や「土曜無料補講」などを通じ、しっかりと勉強をした上で『3学期の定期試験』に臨んでください。



■塾からのご案内■

在塾生のご父母を対象に、「個別面談」を実施します。

2月上旬から下旬にかけ、**中3受験生を除く在塾生のご父母を対象に「個別面談」を実施**いたします。教室長との「1:1」の形式で、お1人様につき約40分をおとりいたします。塾での現在の学習状況や今後の学習の展望・進路にまつわご相談など幅広くお話をさせていただきたいと思っております。後日別紙にてご案内をお送りしますので、詳細はそちらをご覧ください。

学習のアドバイス【受験へ向けて】

前回は、「テスト勉強と受験勉強の違い」についてお話ししましたが、いかがでしたか。今回は、「過去問をどのように活用するべきか」というテーマで話を進めてまいります。

最初に“過去問を活用するメリット”についてですが、それは2つあります。
1つ目は「落ち着いて取り組むことができる」ということです。

「正体がよくわからない」ものは不安や動揺をかきたてます。しかし、過去問を解くことでその実態を知ってしまえば、案外難しくなかったり、あるいは難しくてもできなくてよい問題が多数あったりといった不安を解消する情報が手に入ります。

2つ目は「具体的な戦術を組み立てることができる」ということです。

「具体的な戦術」とは目標点や時間配分を指します。入試問題は、易しい問題から始めて徐々に難しくなっていくというような順番で作られているわけではありません。たとえば、中盤にひどく難しく手間がかかる問題があり、その直後に簡単な問題があるということもあり得ます。また、難しく手間がかかる割には配点が低い問題も存在しますので、難問をとばすことで逆に高得点につながることもあります。入試において受験生に求められることは、志望校に「合格」するために必要な点をとることであって、最高点や満点を取ることはありません。そこで、入試問題の「正体」をよく見極めて、自分の得意不得意にあわせた「戦術」を組み立てることが大切になるのです。これを意識しておかないと、ペース配分を誤ったり、難問に動揺したりして普段の実力を発揮できなくなってしまいます。

次に“具体的な過去問の活用法”ですが、**県立高校については埼玉県の場合、他の県と比べて分量が多いことが特徴です。そこで1~2年分(できれば古いもの)を、時間を気にせず解いて、どのくらいかかるか計ってみてください。そしてどこで時間を削ればいいのかを分析したあと、別の年度の問題をきちんと時間を計って解いて答え合わせをしてみましょう。**そのとき目標の点数をクリアしていれば、解けなかった問題についてはあまり気にする必要はありませんが、目標の点数をクリアしていなければ、担当の講師にどこを復習すればいいか相談してください。

また、**前回より英語と数学では問題の一部に応用的な内容を含む「学校選択問題」が学力上位校において実施**されましたが、英語がこれまでの出題傾向を踏襲したものであったのに対し、数学はかなり傾向が変わりました。この傾向が続くかどうかはまだ試行錯誤の段階ですので何とも言えませんが、その結果を見た限りでは、得点にあまり差がつかずうまく機能したとは言えませんので、改善の余地はありそうです。ただし、東京都のようにそれぞれの学校が独自で問題を作成するわけではありませんし、半分以上は共通問題ですので、極端に難易度が変化することはないと思います。これまでの過去問にしっかり取り組むことで、十分対策になるはずですよ。

私立高校については状況によって活用の仕方が異なります。推薦基準を満たして個別相談で高校側から合格の確約またはそれに近い返答をいただいている場合には、よほど悪い点数をとらない限りは合格できますので、問題形式(マークシートか記述式か/作文やリスニングはあるかなど)を確認したうえで、最近の2~3年分を解いておけば十分です。ただし、推薦基準があくまで出願の目安で合格が確約されていない場合や、推薦基準にとどかず一般受験をする場合は、当日の点数が否否に直結しますので、それなりの対策が必要になります。ただし、その傾向は高校によって様々ですので、担当の講師とよく話し合ってください。



教室長日記 受験生に“ささる”名言



年が明け、県立高校入試までいよいよあと1カ月半となりました。今回は、勉強に日々追われている受験生に「ささる」名言を、いくつかご紹介したいと思います。

〈できると思えばできる、できないと思えばできない。これはゆるぎなき絶対的な法則である〉(パブロ・ピカソ)

〈誰よりも三倍、四倍、五倍勉強する者、それが天才だ〉(野口英世)

〈君がどんなに遠い夢を見ても、君自身が可能性を信じる限りそれは手の届くところにある〉(ヘルマン・ヘッセ)

いずれも歴史に名を遺した偉人たちですが、彼らだって皆さんと同じ〈人間〉です。

最初から難しいことを不可能だと思わずに、きっとできる!という気持ちをもって向き合うということ。

また、自分自身の可能性を信じながら、誰よりも努力して勉強すること。

その先にきっと、皆さんにとっての輝かしい未来が待っています!

冬来たりなば、春遠からじ——精一杯頑張っ、明日を切り拓いていってください!!

(所沢校 中島)

